



Nara
Women's
University

Today

「Today」の創刊に寄せて

国立大学の法人化など大学を取り巻く状況は目まぐるしく変化しています。大学の中心となるのはその教育と研究にあることはいうまでもありませんが、大学にはこれまで以上に国際貢献、地域貢献、産学連携などさまざまな面からの役割が期待されています。このように大学の諸活動が多様化しているため、学生・大学院生や教職員などの学内者にとっても、大学のさまざまな動きについて必ずしも十分に情報が伝わらない場合もあります。奈良女子大学の情報誌である「Today」は、本学の最近のニュースを学内外の皆様方に知って頂こうという狙

いで新たに発刊の運びとなりました。それぞれの記事は最近のニュースのダイジェストとなっており、また出来る限り写真などの図版を多く取入れるように編集していますので、気楽にお目通し頂き最近の奈良女子大学の近況を肌で感じとって頂ければ幸いです。また、本学の関連ホームページのアドレスも掲載してありますのでご利用ください。

学長 久米健次



寄宿舍改修

- 全個室で11月オープン -

昨年から工事が行なわれていた寄宿舍の改修が進み、この11月に全て個室として完成予定です。各個室にはユニットバス・ベッド・エアコン・冷蔵庫・勉強机・ワードローブ等が整備されています。各ブロックごとに調理場所としての補食室が設置されています。また洗濯機と乾燥機を備えた洗濯室を設け、寮生相互の交流を図る場所としてリビングスペースを設置しています。この寄宿舍の完成により、国際学生宿舍と併せて定員は340人となります。この改修によって、本学に入学した女子学生が女高師以来伝統的に受け継がれてき



改修整備された寄宿舍

た家庭的な雰囲気のある寄宿舍で勉強をはじめ生活全般にわたり充実した学生生活を送れるようになります。

総合研究棟今秋完成

- プロジェクト研究一層の活性化へ -

総合研究棟H棟は今年の2月から建設が進められていましたが、10月に完成予定で、11月から利用を開始する予定です。大学の教育研究の一層の活性化が求められている現在、特色ある教育研究の進展に寄与する施設として建設が進められていたものです。

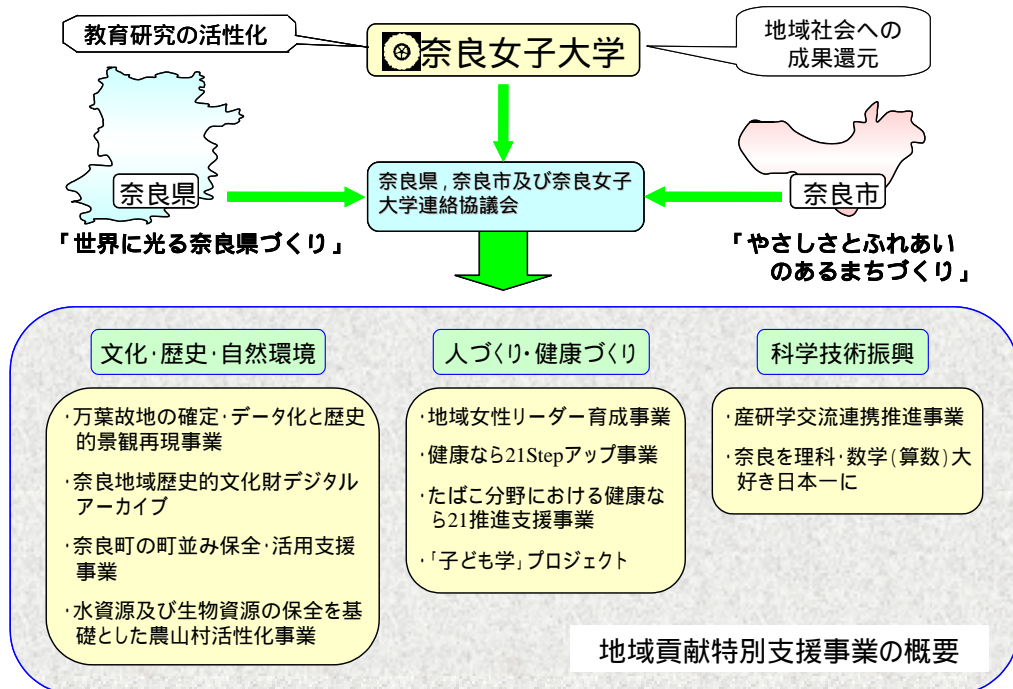


完成予想図(総合研究棟は右側)

総合研究棟H棟内には、プロジェクト研究スペースが15室、研究室が10室整備され、特にプロジェクト研究スペースは、オープンで広々とした空間で、流動的な研究活動を受け入れる器となり、多様な研究成果が生み出される場として期待されています。この総合研究棟H棟は、本学では初めての共用スペースとして3年を期限として有償貸与方式で運用されることとなっています。

地域貢献特別支援事業に選定

地域貢献特別支援事業は、文部科学省が、自治体と国立大学との将来にわたる真のパートナーシップの確立や、大学全体としての地域貢献の組織的・総合的な取組みの推進を目的に募集を行なった事業であり、平成15年度の募集では全国74国立大学からの申請のうち本学を含む26大学が選定されました。本学では下図に示したように「文化・歴史・自然環境」「人づくり・健康づくり」「科学技術振興」を大くりのテーマとして10事業を計画し、奈良県・奈良市との共同事業を推進しています。(<http://koto.nara-wu.ac.jp/CLA/top.htm>)



産学官連携推進室を開設

本学における産学官連携を推進するため、5月14日に産学官連携推進室が設置されました。推進室は、重定副学長を室長として本学の教官と事務職員が所属しています。さらに、地域産業界との交流を図る、産学官連携コーディネーター(本学理学部卒業生)が9月より配置されました。また本学の研究内容を広く産業界に知ってもらうため「産学官連携研究シーズ集」(写真右)が発行されました。(<http://www.nara-wu.ac.jp/kenkyou/>)



サテライトキャンパス来春オープン

大阪市北区の中之島に建設中の「キャンパス・イノベーションセンター」の一室(30m²約20名収容規模)をサテライトキャンパスとして来春からオープンすることになりました。双方向の遠隔授業システムを備え、e-learningなども利用した大学院の前期課程を中心とした社会人教育、公開講座、各種の研究集会や産学連携の活動にも利用されます。また大学広報にも活用が期待されています。サテライトキャンパスへの入居大学間をつなぐコミュニティー組織として「企画連携協議会(仮称)」が設置されることが予定されており、大学間の連携を促進するなどさまざまな利用形態による活用が期待されています。

アカデミックガイダンス

附属中等教育学校において

奈良女子大学附属中等教育学校では平成14年度から本学教官の協力を得てアカデミックガイダンスを開講しています。生徒が大学教官から直接、学問の面白さを学ぶことにより、生徒自身の将来設計に資することを目的としています。

中等教育学校の3・4年生が、自分の学問に対する興味・関心に基づいて、期(9月)1講座、期(12月)1講座を選択して、2年間で合計4講座を受講しています。



平井文学部教授による「動きのセラピー」の講義

理学部50周年を祝う会

平成15年8月1日(金)に、奈良県新公会堂において「理学部50周年を祝う会」が開催され、これまで理学部に貢献されてこられた先輩諸先生方や卒業生ら約180名の方々が参加しました。理学部長、学長、さらに退官された教官等からの祝辞のあと、本学理学部を基盤に研究を続けてこられた各学科の先生方の講演会が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。夕方からの懇親会では、50年を振り返る写真上映会を楽しむなど、和やかな雰囲気の中に幕を閉じました。



懇親会で歓談する参加者

オープンキャンパス

入学志願者を対象としたオープンキャンパスが8月2日(土)に開催され、猛暑の中749名の志願者・保護者が参加しました。志願者はそれぞれの学部・学科で模擬授業や、実験・実習などを体験したり、創立当初からの建物である記念館や図書館を見学しました。第2回目のオープンキャンパスは11月2日(日)に開催されます。



日本アジア言語文化講座で写本を見学する参加者

記念館一般公開

4月29日(火)から5月5日(月)の7日間、本学記念館の一般公開が実施されました。今回は、2階ロビーにおいて写真パネル展示「ガンダーラ遺跡・アンコール遺跡を掘り、保存する」が同時開催され、本学の上野邦一生活環境学部教授及び増井正哉生活環境学部助教授が、現地での発掘調査や保存修復活動時に撮影した写真等を中心に約20点が展示されました。

また、5月4日(日)には、上野教授により、「アンコール遺跡を掘り保存する」と題して記念講演が行なわれ、約90人の参加者が興味深く聞き入っていました。

次回の記念館一般公開は平成15年11月1日(土)から11月7日(金)までの7日間実施します。



カブール大学よりポパル学長来訪

カブール大学のポパル学長が、9月26日本学に来学し、学長、両副学長、人間文化研究科長、宮坂生活環境学部助教授、中道附属中等教育学校副校長、事務局長と懇談しました。今回は、国際交流基金の文化人短期招聘計画の一環として来日したもので、同大学と学術交流協定を締結（平成15年3月28日付け）した本学にも訪問し、カブール大学の現状と戦後復興への取組み等について熱心に説明されるとともに各種支援についての協力要請がありました。また、人材養成支援の一つとして、ポパル学長から推薦され本年10月より国費留学生として受入れるデーバ・カシミールさん（カブール大学理学部物理数学科講師）についても話題となり、学長から、来年度以降の国費留学生の受入れに関連し募集時の適任者の推薦をとの要請が行われるなど、予定の時間を超えて終始なごやかに会談が行われました。



日本留学フェア 韓国会場

奈良女子大学では、平成7年度より毎年海外で開催される日本留学フェアに参加し、留学希望者に対する広報活動を行っています。私は、昨年9月に韓国で開催される日本留学フェアに参加するため、はじめて韓国を



訪問しました。釜山（9/13）、ソウル（9/15）のフェア会場には、日本留学試験についての情報を求める学生が多く訪れ、日本留学試験に対する関心の高さが窺えました。何よりうれしかったのは、本学の留学生やすでに帰国した留学生が、留学フェアの会場を訪ねてきてくれ、本学の広報活動に尽力してくれたことでした。（文学部助教授 野村鮎子）

国際交流基金による奨学金を受けて

私は結婚しており、夫と子供を中国に置いて、一人で留学にきました。私の夫は中国の普通のサラリーマンで給料も安いですが。その上、一人の子供を扶養しています。最初日本に来た時全ての留学費用を両親から出してもらっていましたが。両親からの仕送り等では生活をしていけないので、時々友達から借金しています。

私は勉強するために日本にきました。できれば全ての時間、勉強したいと思っています。しかし物価が違うから、生活費を得るため、自分でアルバイトをしなければなりません。理学部の専攻は実験、演習が多くて、勉強とアルバイトの両方をやるのができません。こういう一番苦しい時、奨学金が支給されたので、本当に心から感謝しています。

奨学金が支給される前は苦しい生活で、十分な勉強ができませんでした。しかし、この一年間はこの奨学金のおかげで勉強に集中でき、一年間で52単位をとりました。情報科学実験、計算機実験、プログラミング2演習と情報数学演習の時間も充分とれ、安心して勉強でき、いい成績をもらいました。特にプログラミング2演習は満点（100点）をとりました。有意義な学生生活を一年間送りました。

引き続き勉強、実験と実習に努力したいと思っています。本当に有難うございました。

（理学部 情報科学科2回生 李 佳紋）

国際交流基金使途報告

奈良女子大学国際交流基金は、本学の創立90周年を迎えた平成11年に、本学の同窓会である社団法人佐保会の支援活動により集められた90周年記念事業募金をもとに設立されました。平成12年度から、この基金に基づいて国際交流に係る支援活動が実施されています。留学生関係では平成12年度から平成15年度までの4年間で、

- ・留学生等支援
 - 外国人留学生奨学金 21名 1008万円
 - 派遣留学奨学金 17名 170万円
- ・留学フェア参加事業 8件 295万円
- ・スピーチ大会援助 38万円

となっています。